

グローバル人材育成プログラム に参加して

上 林 和 樹
Kazuki KAMBAYASHI
機械システム工学科 3年

1. はじめに

私は8月16日から9月2日までの18日間、カリフォルニア州のIT企業の見学と現地でインターンができるこのグローバル人材育成プログラムに参加した。

参加した目的は、2つあり1つ目は海外と日本との働き方の違いを実際に現場で体験してみたいということ、2つ目は英語というものに対して強い苦手意識をもっており、それを克服したかった為である。

2. シリコンバレー企業見学

8月16日から19日までの3日間は主に企業見学を行った。

Oracle社では従業員一人ひとりにあわせた働き方を認めていることや、社員の健康のためにジムがあるなど日本の会社とは大きく異なる働き方を見学できた。

Amazon goではビックデータを活用した新しい販売形態やレジの無いスムーズな買い物を体験したり、Google社やコンピュータ歴史博物館では情報の持つ力と、それを扱うことの影響力の大きさなどを学ぶことができた。

また、スタンフォード大学では、デザインシンキングの講義を行う教室を見学した。

発想力を鍛えるこの授業では、課題の本質を見極め、解決手段を探していく過程で挑戦していくこと教えていると知り、こういった学習を大学生のうちから学んでいる為、カリフォルニアでは起業したり、転職をするIT技術者が日本に比べて多いのだと感じた。

3. 講演会

グローバルキャリアセミナーではサイボウズ社の山田さんの講演が印象的で、

- ・従来のやり方に囚われず、新しいことに挑戦した企業が成功を収めた。
- ・斬新なアイデアは大きな企業をも倒す武器となる。

と失敗を恐れずに挑戦することの大切さを教えて頂いた。

そしてカリフォルニアでは様々な人が会社を作り、新しい試みに挑戦し、すでにある企業もそれに負けないよう常に新しいアプローチを探し続け、切磋琢磨していることを知った。

ITエンジニアで様々な大使を務めているカンザダ・アミルさんからは

- ・社内起業といった働き方
- ・英語が母国語である外国人は少ないため、英語は相手に伝われば完璧な文法である必要はない。

ということを教わった。

社内起業といった日本ではまだ主流ではない起業の仕方などは今後の自分の働き方を広げてくれる知識となった。

4. ホームステイ

ベトナム人夫婦のご家庭にお世話になった。

ホームステイでは普段の何気ない日常会話は、入国審査の受け答えや業務中の受け答えよりも難しいことを知った。

そしてこちらの夫婦は自分の他にも多くの外国人留学生をホームステイさせていた。

様々な国籍の人と触れ合う機会が多く、日本とは異なる文化や生活形態に戸惑いを感じることは多かったが同時にとても新鮮でもあった。

また英語に対して苦手意識を持っていた自分にはいい刺激になった。

5. 研修先の概要

私は8月19日から30日までの間、Kign Tires & Wheels Auto Centerという企業で研修させて頂いた。

ここは自動車の修理を行う会社で、主な業務内容はタイヤ交換であった。

実際に研修させて頂いた内容は

- ・タイヤ交換
- ・パンク修理
- ・エンジンオイル交換
- ・ブレーキパッド、ディスク交換
- ・部品の塗装
- ・リフト操作

など多岐にわたって業務に携わらせて頂いた。

従業員の方は全員メキシコ人で英語のほかにもスペイン語が多く飛び交っていた。

自分は英語が苦手で、言語の壁を大きく感じたが店長から「正しく喋ることよりも、自分の言葉で伝える事のほうが大事だ」と言われた。



図1 取り外したブレーキディスク

そして実際に英語の能力が低くても、伝えたいという意思を見せれば、相手も聞こうとしてくれることが分かった。

分からないことがあれば積極的に聞き、自分から行動するという点は日本での働き方と大きな変わりはないが彼らはラテン独特の時間感覚を持っており、日本のように慌しく働いたり、残業といったことがなくマイペースに働いていることに大きなカルチャーショックを受けた。

6. おわりに

日本を出る前は、グローバル人材に必要な要素とは英語が喋れること、自分の考えを伝えられることであると考えていたが実際には、英語が喋れることよりも伝えようとする意思を見せることのほうが重要であることを学んだ。

また、実力社会であるアメリカでは個人のスキルはとても大切であり、英語力のほかにも何か強みとなるスキルを身に着けなければならないことも分かった。

様々な人種の人たちがいて、宗教があるアメリカでは考え方も非常に多様であり、現地に馴染むことは容易ではなかった。

その中で自分が学んだことは新しい文化を受け入れるという事は、今までの自分の中の常識を捨てることだということである。

そして、様々な価値観をもった人がいるなかで自分から積極的に動くためには新しいことを恐れないという姿勢が非常に重要であることがわかった。

自分の中で大きな収穫のある研修プログラムであった。